

平成 28 年 度

(自 平成 28 年 4 月 1 日～至 平成 29 年 3 月 31 日)

事業報告書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来51年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の81ヶ国から989名、併設されている研究員用11室を利用した学者、研究者は95ヶ国から3020名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

平成25年4月1日、公益財団法人京都国際学生の家として移行登記を完了して、新法人として第3期を迎えた。また平成27年3月30日に、当財団への寄付者が年間100名以上で、5年間以上続いたことで、当財団に対する寄付金は「税額控除」の対象として認められ、「税額控除」または「所得控除」いずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができるようになった。

平成25年度に建物の耐震診断を行った結果、耐震補強が必要であることが判明した。更に平成27年度は本学寮設立50周年、つまり半世紀も地道な活動を続けてきた節目の年として、秋には記念行事を行った。そこで、多くのご意見をお聞きしながらHdBの将来を検討するため、将来計画委員会が立ち上げられ、この耐震問題について検討を重ねてきた。委員会からは、国内外の学生に「共同の生」を実現するための場を提供するという基本理念を維持しながら、新時代に相応しい活動もできるような建物として再建する、新しい活動拠点案が提示されている。

但し、どの再建案も、土地を担保に借り入れする案であった。自分のものでない土地を担保とし、借入金の支払い期間も30年と、現役員が責任を取れないばかりか、自己資金（寄附金で集めるしかない）を1～2億円は準備する必要があるという案であった。

一方、耐震対策として改修する案も考慮されていたが、弱い壁の補強に筋交いを入れるという耐震対策では使い勝手も悪く、改修しても建物を何年維持できるかという問題もあり、改修案については十分検討されていなかった。一次耐震診断では、HdBの1階ロビーが壁を取り払って広い空間を取っているため耐震に弱いと判断されていた。そこで、ロビーを壁で区切り、部屋にするという耐震対策をとり、失うことになるロビーは、新たに1階建ての別棟として造るという改修案が検討された。この改修に約1.5億円（別棟で研究者棟を新築すればプラス1億円）を費やせば、今後40～50年は維持できるということであった。この改修案では、土地問題を考慮しなくても良く、新築案と同じ額くらいの募金を集めれば、借入れをせずに耐震対策ができることになり、これまでの案の中では一番ハードルが低いと判断された。

しかし、この改修案は一次耐震診断を基に作成されたものであり、更に詳細な二次耐震診断（壁を穿ち、鉄筋の現状を把握する等）の結果を基礎にした試案ではない。改修案を改築案と比較・検討するには、二次耐震診断の結果を基に、耐震改修に必要な経費を再算出する必要がある。そこで理事会は、350万円ほどの費用を支払っても、二次耐震検査とそれに伴う改修工事案の提案を受けることになった。

その結果を受けて、耐震対策の方針を決めると共に、募金活動を開始し、寮生の受け入れの中断などのスケジュール等を検討することになっている。但し、単に耐震改修をただけでは、学生及び研究者の部屋数は改修前と同じであり、収入も多く見込まれず、将来も経済的に安定しないと考えられる。できれば新研究者棟（総工費約1億円）も建設して、将来のHdBの運営を経済的に安定させたいと考えている。

改修案が実行に移されたとしても、これまで新築案で検討してきた、**1. 多文化共生拠点、2. 国際民間企業連携拠点、3. コミュニティ防災拠点**、等の拠点作りも実現できるよう、検討を続ける予定である。

I. 事業の概況

1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	11 室	研究者用にはツインルーム 3 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（平成 28 年 4 月より平成 29 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	15	京都大学	28
中国	4	同志社大学	4
韓国	3	NCC 宗教研究所	2
ドイツ	3	龍谷大学	2
台湾	1	立命館大学	1
モンゴル	3	京都外国語大学	1
カザフスタン	1	京都女子大学	1
インド	1	明星大学	1
ブラジル	1		
カナダ	1		
イギリス	1		
ネパール	1		
タイ	1		
エジプト	1		
ニュージーランド	1		
アメリカ	1		
マダガスカル	1		
合 計	40	合 計	40

○研究者・学者の部

アメリカ	4	チェコ	2
イタリア	1	中国	3
イラン	1	ドイツ	3
インド	1	トルコ	1
インドネシア	2	日本	1
カザフスタン	1	ハンガリー	1
韓国	1	フィンランド	2
スイス	2	メキシコ	1
台湾	1	合 計	28

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、日本人の一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事（当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など）を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備（共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等）を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19：30～21：00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、

会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であり、道場だと考えている。「食べる」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることのできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成28年4月11日(土)、10月8日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行われた。

○国際食べ物祭り：平成28年7月9日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下された方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらおう定例行事。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：平成28年11月12日(土)

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○ 小旅行：

前期：平成 28 年 5 月 28 日（土）、29 日（日）

亀岡市七谷川野外活動センター
キャンプを行い、保津川ラフティング、BBQ、キャンプファイヤーなど
を楽しみ交流を深めた。

後期：平成 28 年 11 月 19 日（土）、11 月 20 日（日）

和歌山市及び周辺地域
和歌山城見学、忍者体験、友が島ツアー等と全員で手作りした夕食を
楽しみ交流を深めた。

○ セミナー

前期：平成 28 年 6 月 11 日（土）

生け花

後期：平成 29 年 1 月 14 日（土）

護身術

○ スポーツ大会：平成 28 年 4 月 23 日（土）、平成 28 年 10 月 22 日（土）

年に 2 度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を
行った。

○ ダンスパーティ：平成 28 年 6 月 25 日（土）

年に 1 度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の
宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チーム」
の活動資金を調達する目的もある。

○ クリスマス・パーティ：平成 28 年 12 月 17 日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の
役員、親しい友人やOB達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食
事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○ クリーニング・デイ（大掃除）：平成 28 年 7 月 10 日（日）、12 月 18 日（日）

年に 2 度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、
応接室、運動場、洗濯室などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、
清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、国際交流に努めた。

③ 図書 の 刊行 頒布

会誌等の刊行：「2016 年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。

2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。その他、当学寮生・研究者等の利便性ために自動販売機を 1 台設置している。

II. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内海博司	京都大学名誉教授
常務理事	飯田悠哉	学術振興会特別研究員
理事	上村多恵子	京南倉庫(株)代表取締役社長
	木戸康博	京都府立大学教授
	村田翼夫	筑波大学名誉教授
	嘉田良平	四条畷学園大学教授
	吉村一良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	吉川晃史	熊本学園大学准教授、公認会計士
	深海八郎	眺八海倶楽部総支配人
監事	琴浦良彦	市立長浜病院名誉院長
	浅田拓史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折田康広	弁護士
学寮運営委員長	山田祐仁	辻調理専門学校
学寮運営委員	秋津元輝	京都大学教授
	大島義信	国立研究所開発法人土木研究所
	坂口貴司	三菱電機(株)
	鈴木在乃	京都大学講師
	田島勇人	松下電器産業(株)
	タナゴナン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳也	京都大学教授
	松橋 眞生	元ハウス・ファーマー
	北島 薫	元ハウス・マザー
	飯田悠哉	ハウス・ファーマー
	Adriana Hidding	ハウス・マザー
2) 評議員	岩崎隆二	和晃技研(株)代表取締役社長
	中島理一郎	元同志社大学教授
	吉田和男	京都大学名誉教授

秋山雅義	公益財団法人応用科学研究所理事
西尾英之助	京都日独協会会長
山田祐仁	辻調理専門学校
平野克己	日本塗装機械工業会専務理事
蔦田正人	蔦田内外国特許事務所代表

3) 顧問

所久雄	社会福祉法人 京都国際社会福祉協力会理事長
神田啓治	京都大学名誉教授
シュペネマン クラウス	同志社大学名誉教授
平松幸三	京都大学名誉教授
森棟公夫	椋山女学園大学教授
柴田光蔵	京都大学名誉教授

4) 職員

氏名	担当事務	備考
樋口洋子	法人事務及び経理事務等	
清水良子	受付業務などの庶務事務	
吉竹慶一	学寮の維持管理（学寮外周り）	

5) 後援会員 （詳細についてはイヤーズブックに記載。）

法人会員	10
個人会員	50
OB会員	966

6) 理事会

回・年月日	議題	結果
第9回 平成 28. 5. 28	1. 第8回理事会議事録について 2. 平成 27 年度事業報告について 3. 平成 27 年度決算報告について 4. 学寮運営委員の承認に付いて 4. HdB の将来問題の件 報告：第6回評議員会開催について	承認 承認 承認 承認 承認

第 10 回 平成 29. 3. 28	1. 第 9 回理事会議事録について	承認
	2. 平成 29 年度事業計画について	承認
	3. 平成 29 年度予算について	承認
	4. HdB の将来問題の件	承認
	5. 第 8 回評議員会の開催について	了承
	6. その他	承認
	報告：	
	1. 平成 28 年度のイヤブックスは特別号になること。また、学生寄稿は別冊とすることについて。	了承

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（後援会費を除く）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

金澤成保、永井千秋、文字健二、富永芳徳、平田康夫、岩田忠久、小野寺良信、辻正樹、坂野泰治、岩沼省吾、林茂、西本太観、Y. T.、金盛彦、高田徳子、鈴木武夫、岡村圭造、木葉丈司、藪田定男、高橋晴雄、岡本徳子、サン子ども園福泉園吉川昭一、小西淳二、窪田弘、山口忠彦、木下研一、森井基躍、澤田正樹、かまの外科医院、中山宏太郎、村崎直美、新居哲、石田栄子、杉山喬一、山下進一、辻村哲夫、山岸秀夫、福本和久、田中徳壽、西尾英之助、美濃導彦、加藤哲雄、森棟公夫、鈴木松郎、中島理一郎、平見松夫、成田康昭、山田有信、前上英二、村田翼夫、岩崎隆二、柳田由紀子、矢島脩三、山本雅英、吉川晃史、Lee Kyungmin、大菅克知、伊藤宏樹、大菅克知、関剣平、ユン ヨンソン、Nguyen Hai Minh、古川彰・千佳、光明和子、光明和子、安田佳子、所久雄、日本ボーイスカウト京都第 42 団、内海博司、野田和伸、深海八郎、秋山雅義、琴浦良彦、木戸康博、Hanna Binder Ekedahl、関西オランダ人協会 ソロプチミスト京都-たちばな、カンタトーレ・ドメニコ

(2) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備 考
外国人留学生 対策事業	京 都 市	1,000,000円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区 分	項 目	金 額
基 本 金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000